

ソラシル未来プロジェクト2019 ~空知を知って地域の未来を考える~

概要

- 振興局ではこれまで、シビックプライド（地元への誇り・愛着）を高める取組として、「ソラシル未来授業」「ソラシル未来授業web版」を実施。
- 2019年は、これまでの取組をさらに発展させ、振興局と各市町若手職員が連携し、「関係人口」を増やしていくために何が必要かを考え、テーマ設定、企画立案から事業提案（実施）までを行う「ソラシル未来チャレンジ」を実施。
- 併せて、未来チャレンジメンバーと管内3大学の学生が、空知の活性化を考える「ソラシル未来授業」を実施。（3大学16名、未来チャレンジメンバー22名、計38名参加）

ソラシル未来授業×管内3大学

- 未来チャレンジメンバー（振興局・各市町若手職員）と各大学（教育大、國學院短大、拓殖短大）の生徒が、「地元の魅力発信」に係る取組内容を共有した上で、地域活性化に向けたワークショップを実施。
- 主な意見
 - ・ 学生は時間を有効に使って、様々な面白い取組をしていると初めて知った。
 - ・ 大学生と行政の間に関わりが少ないので、もっとつながりを増やす必要があると感じた。
 - ・ 大学生の行動力、行政の発信力とお互いに補完し合っていくことで、より良い地域にできると思う。



ソラシル未来チャレンジ ~振興局・各市町若手職員が地域活性化に向けた取組を推進~

南空知ブロック

地域の課題

- 観光客が滞在する期間が短い。
- 情報発信がうまくできていない。
- 自分のまちの強みを地元の人と言えない。



○パンフレット「ようこそ南空知へ」の作成



日帰りができる3つの観光コース（フォトジェニックドライブコース、鉄道デートコース、夕焼けドライブコース）を提案。若手職員の視点でユニークな観光資源を盛り込み、作成者の顔もパンフレットに掲載。若者をターゲットとすることで、若者が地元の良さを知り、将来的にまた地元に住みたい・貢献したいと思ってもらうことを目的に作成。



○「観光（たび）ゼミナール」の開催



観光の側面から南空知を発展させるためにどのような取組が必要か、また、先進事例や体験談を講師に紹介してもらうことで、観光に関わる自治体職員等の知識の向上を目的に実施。講師には、三笠市の地域おこし協力隊、岩見沢市観光協会の方を招へい。



中空知ブロック

地域の課題

- 取組を知ってもらう努力が足りない。
- 人のつながりが重要視されていない。
- 個性豊かな地域おこし協力隊を活かせていない。



○「中空知（じもと）未来サミット」の開催



地域おこし協力隊との連携と、自治体職員の地域への愛着醸成を目的として実施。第1部では地域おこし協力隊が活動内容を発表。第2部では「空知の未来」をテーマに参加者同士でグループワークを実施。

○「アトリエ中空知」の開催



魅力ある人の発掘と、人のつながりの創出を目的として実施。茶道教室やたこ焼きづくりなど、中空知に住む9名の匠の技を1日体験できるイベントを実施し、当日は約300名が来場。

○ふるさとリレー動画「中空知に咲く夢」の作成



空知出身のアイドルグループ「TA COLORS」の楽曲にのせ、34団体220人が、中空知の人の魅力や中空知の元気をアピールする動画を作成。

北空知ブロック

地域の課題

- 情報発信の仕方が現状では不十分だと感じる。
- もっと多くの人に北空知の食のおいしさを知ってもらいたい。



○「映える」写真講座の開催



SNSを利用した情報発信に活用するため、魅力ある写真の撮影方法を学ぶセミナーを開催。JR留萌本線にも乗車し、車窓からの景色や、まちの様子などをカメラで撮影。

○「北空知バスらせコンクール」の実施



「映える」写真講座で学んだ技術を活かし、多くの人に北空知で写真を撮ってもらうため、Instagramを活用したフォトコンテストを実施。応募総数244点から、優秀作品に各市町の特産品を贈呈。

○「新春もちつきまつり」の開催



北空知の食のおいしさを知ってもらうだけでなく、子どもたちが大人になっても思い出に残るようなイベントとして、もちつきを実施。もちの添え物として各市町の特産品を提供し、参加者に北空知の味をPR。